

## 1 趣 旨

小学校高学年期の子供が長期間の共同生活の中で全力を出し切って取り組む活動をとおして、激動の世の中を主体的に生き抜く力の基礎を育むことを目指す。

## 2 ねらい

困難な状況に挑戦し、他とかかわり合いながら課題を克服する経験を積むことをとおして、主体的に生き抜く力の基礎（3つの力「かかわる力・感じる力・見つめる力」）を育てる。

## 3 日 程

- (1) 期 日 平成28年7月31日(日)～8月10日(水)【10泊11日】  
 (2) 参加者 18名(石川県16名,岐阜県1名,栃木県1名)  
 (3) 研修内容及び講師



|          |   |   |
|----------|---|---|
| 7月17日(日) | 出 | ○事業説明 ○実習「アイスブレイク」○実習「サイクリング」○事前アンケート                           |
| 7月31日(日) | 会 | ○開講式 ○実習「アイスブレイク」○実習「登山の準備」                                     |
| 8月1日(月)  | チ | ○実習「白山登山」(県立白山ろく少年自然の家～別当出合～白山室堂)                               |
| 8月2日(火)  |   | ○実習「白山登山・下山」<br>(室堂～山頂・御前峰～別当出合～県立白山ろく少年自然の家)                   |
| 8月3日(水)  |   | ○実習「イワナつかみ体験」「サイクリング約20km」<br>(県立白山ろく少年自然の家～昆虫館芝生広場)            |
| 8月4日(木)  | チ | ○実習「竹細工・竹ご飯・流しそうめん」「白山比咩神社参拝」                                   |
| 8月5日(金)  |   | ○実習「サイクリング約78km」(県立白山青年の家～国立能登青少年交流の家)                          |
| 8月6日(土)  |   | ○実習「サイクリング約45km」<br>(国立能登青少年交流の家～能登島・松島オートキャンプ場)                |
| 8月7日(日)  |   | ○実習「サイクリング約74km」(能登島・松島オートキャンプ場～能登少年自然の家)                       |
| 8月8日(月)  |   | ○実習「大型カヌー」(県立能登少年自然の家)<br>○実習「レクリエーション・ふりかえり」(県立能登少年自然の家)       |
| 8月9日(火)  | 旅 | ○実習「サイクリング約34km・ふりかえり」(県立能登少年自然の家～禄剛崎)<br>バス移動(禄剛崎～国立能登青少年交流の家) |
| 8月10日(水) |   | ○実習「ふりかえり」(国立能登青少年交流の家)<br>○閉講式・宣言(なりたい自分)                      |

### (4) プログラムデザイン

ねらい達成に向け、長期間のキャンプを4つのステージに分けて設定した。単に活動を羅列するのではなく、ステージのねらいに合わせて実施することで、効果的に子供の成長を促す。

#### 【4つのステージのねらい】

|       |   |
|-------|---|
| 出会い   | これからの活動に対し、新しく出会った仲間と共に取り組んでいこうとする意欲をもつ           |
| チーム作り | 同じ班の仲間と励まし合い、目的を共有しながら登山することにより、仲間意識を高める          |
| チャレンジ | 困難なサイクリングに対し、仲間と声をかけ合いながらやり抜くことにより、仲間の大切さを実感する    |
| 旅立ち   | 全日程をやり遂げた達成感を感じるとともに、自分の成長を見つめ、これからの自分の生き方について考える |

## 4 成果と課題

(1) 3つの力「かかわる力・感じる力・見つめる力」の変容を見取る評価

### ①量的評価

ア ふりかえりカード

9つの評価規準(表1参照)を設け、それぞれ5段階で自己評価した。キャンプ前とキャンプ中の毎日(最終日を除く)の合計11回行った。また、子供自身がふりかえり易くするため、自己評価のポイントをチャート図に表したり、全てのカードを1冊のファイルに納めたりした。



| 3つの力  | 評価規準                           |
|-------|--------------------------------|
| かかわる力 | ①自分から進んで友達や指導者に話すことができたか。      |
|       | ②相手の立場に立って話したり、行動したりすることができたか。 |
|       | ③友達と励まし合って活動に取り組むことができたか。      |
| 感じる力  | ④友達のよいところを見つけたり、感じたりすることができたか。 |
|       | ⑤自然の素晴らしさや厳しさを感じる事ができたか。       |
|       | ⑥仲間との存在の大切さに気付くことができたか。        |
| 見つめる力 | ⑦自分自身のよいところを見つけることができたか。       |
|       | ⑧あきらめないで最後までがんばりぬくことができたか。     |
|       | ⑨指示されるだけでなく、自分で考えて行動することができたか。 |

表1「9つの観点, その評価規準」

「石川縦断キャンプACTIVE2016」ふりかえりカード 月 日 ( ) 運 氏名 ( )

※今日の1日の活動を終えて、今の自分について振り返ってみましょう。 ◆評価点> 評価点を下のチャート図に表そう!

| 3つの力  | 評価規準                           | 評価点 |
|-------|--------------------------------|-----|
| かかわる力 | ①自分から進んで友達や指導者に話すことができたか。      |     |
|       | ②相手の立場に立って話したり、行動したりすることができたか。 |     |
|       | ③友達と励まし合って活動に取り組むことができたか。      |     |
| 感じる力  | ④友達のよいところを見つけたり、感じたりすることができたか。 |     |
|       | ⑤自然の素晴らしさや厳しさを感じる事ができたか。       |     |
|       | ⑥仲間との存在の大切さに気付くことができたか。        |     |
| 見つめる力 | ⑦自分自身のよいところを見つけることができたか。       |     |
|       | ⑧あきらめないで最後までがんばりぬくことができたか。     |     |
|       | ⑨指示されるだけでなく、自分で考えて行動することができたか。 |     |

評価点 5・・・よくできた 4・・・まあまあできた 3・・・どちらとも言えない 2・・・あまりできなかった 1・・・できなかった

9つの点を線で結んでみましょう!

<今日の活動を振り返って:チャート図を見て気づいたことを書こう>

明日の自分へのメッセージ!

表2「自己評価カード(上)と保護者アンケート(右)」

保護者の方へ  
「石川縦断キャンプACTIVE2016」についての保護者アンケート  
参加児童名( )

「石川縦断キャンプACTIVE2016」は参加した子供たちにとって、日常では体験できない貴重な活動に参加し、多くのことを学びました。保護者のみなさまに、保護者のみなさまに「かかわる力・感じる力・見つめる力」を育むことを願い、子供たちに毎日活動体験をさせたいだけでなく、活動を通して「生きる力」を育むことを願い、子供たちに、1日の活動を振り返り、自分自身を見つめる活動を行っています。

| 観察項目                          | 観察内容                          | 評価点       |
|-------------------------------|-------------------------------|-----------|
| 自分から進んで友達や指導者に話したか。           | 自分から進んで話したか。                  | 5 4 3 2 1 |
| 相手の立場に立って話したり、行動したりすることができたか。 | 相手の立場に立って話したり、行動したりすることができたか。 | 5 4 3 2 1 |
| 友達と励まし合って活動に取り組むことができたか。      | 友達と励まし合って活動に取り組むことができたか。      | 5 4 3 2 1 |
| 友達のよいところを見つけたり、感じたりすることができたか。 | 友達のよいところを見つけたり、感じたりすることができたか。 | 5 4 3 2 1 |
| 自然の素晴らしさや厳しさを感じる事ができたか。       | 自然の素晴らしさや厳しさを感じる事ができたか。       | 5 4 3 2 1 |
| 仲間との存在の大切さに気付くことができたか。        | 仲間との存在の大切さに気付くことができたか。        | 5 4 3 2 1 |
| 自分自身のよいところを見つけることができたか。       | 自分自身のよいところを見つけることができたか。       | 5 4 3 2 1 |
| あきらめないで最後までがんばりぬくことができたか。     | あきらめないで最後までがんばりぬくことができたか。     | 5 4 3 2 1 |
| 指示されるだけでなく、自分で考えて行動することができたか。 | 指示されるだけでなく、自分で考えて行動することができたか。 | 5 4 3 2 1 |

<尚書> 用したとある項目に○を付してください。(複数可)

※保護者の連絡先(住所・電話番号)は、「石川縦断キャンプACTIVE2016」以前より連絡がとれたメールアドレスや子供の氏名を記載してください。

※写真ありの紙とご用意しました。  
※ここで記載された内容については、本事業の研修についてのみ使用します。事前等の公表、目的以外の使用は一切ありませんので、ご了承ください。

イ 保護者・担任による評価

キャンプ前とキャンプ終了1か月後に保護者と担任による評価を行った。自己評価と同じ評価規準で評価することで、家庭生活や学校生活において3つの力がどのように生かされているか見取った。また、終了1か月後の調査では、キャンプ前と比較して成長していると感じられる項目を挙げてもらった。

### ②質的評価

ア ミニ作文・ふりかえり作文

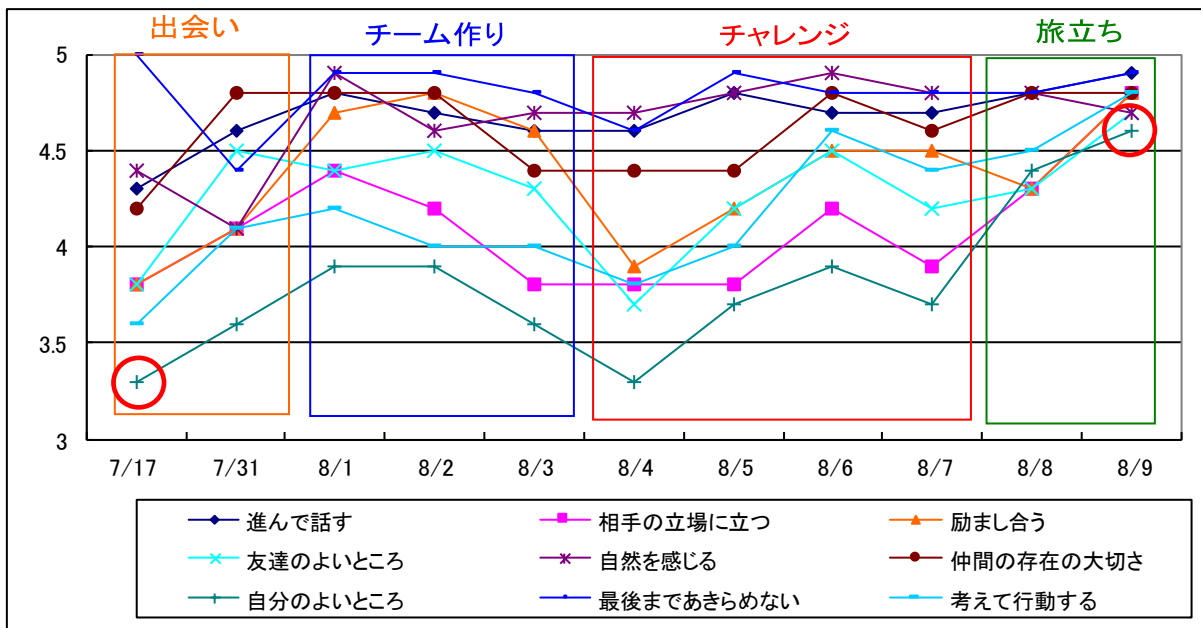
毎日のふりかえりカードに、ミニ作文の欄を設け、その日の気づきをその日のうちに記入できるようにした。キャンプ最終日は、自分の成長や今後の生き方等について文章でまとめた。

イ 参与観察

班付きスタッフは各班2名・本部スタッフは1名配置した。スタッフには手帳を配布し、子供の変容について記録した。子供と一緒に活動するスタッフならではの視点で記述するようにした。なお、記録にあたっては、プログラムデザインに位置付けているねらいと、9つの評価規準を意識した。

(2) 量的評価の結果と考察

①自己評価（5段階評価の平均：有効回答数18）



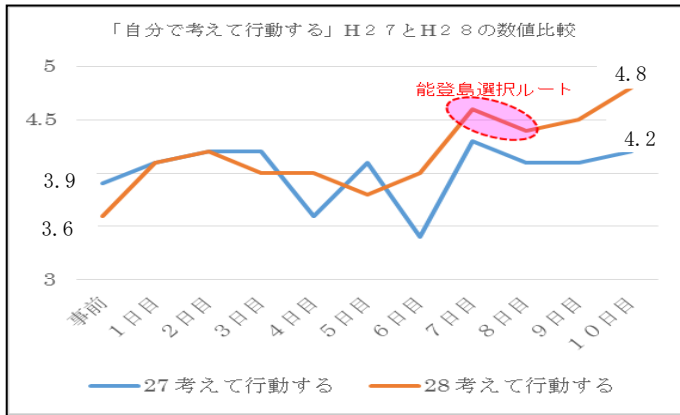
グラフ1「観点別 得点の推移」

- ・ 3つの力とも「出会い」から「チーム作り」にかけて得点が大きく上がり、「チャレンジ」初日で下がった得点が、最後に全て上昇している。
- ・ 白山登山の日（8/1・2）、サイクリング行程の能登島選択ルートを走行した日（8/6）、禄剛崎にゴールした日（8/9）にそれぞれ高得点を示している。このことから、生き抜く力の3要素の高まりは、全力を出し切り達成感を味わうことと関連がある。
- ・ 特に着目したいのは、「自分のよいところを見つける○」の観点である。事業前は3.3ポイントだったこの観点は、事業終盤に大きく数値を上げ、4.6ポイントとなり、上昇率は1.3ポイントと9観点のうちで一番大きく向上した。これは、困難なキャンプをやり抜いたことが自信となり、達成できた自分自身への自信の表れだと考える。長期のキャンプであるからこそ、継続的な自己評価の場を設定することができる。そして、自分自身をじっくりと見つめることによって、自己肯定感を高めていくことにつながったと言える。

<27年度長期キャンプ「全力キャンプ」との自己評価比較>

昨年度実施した10泊11日の長期キャンプにおいても、3観点9項目の自己評価を行った。昨年度は、参加者の自己評価から「最後まであきらめない」「友達と励まし合う」など観点の向上が見られるなど、大きな成果を上げることができた。その反面、「子供自身が自分で考え判断し行動する力」の向上があまり見られず、課題を残した。

そこで、今年度のキャンプでは、子供たちが自ら考え判断する場を意図的に仕組む必要があると考え、「能登島選択ルート行程」を取り入れた。この行程は、それまでのスタッフが先導して走るサイクリングとは違い、チームでルートを考え、子供たちだけで話し合いながらゴールまで走る行程である。スタッフに頼ることができない子供たちは、自分たちでルートを話し合う状況が自然と生まれ、自転車を進めては途中で立ち止まり、様々な情報（与えた地図、道路標識や看板、周囲の状況等）を判断材料にしながら、ゴールを目指す姿が見られた。次頁のグラフは、「自ら考え、判断し行動することができたか」の自己評価の点数を集計し、その平均点を昨年度と比較したものである。

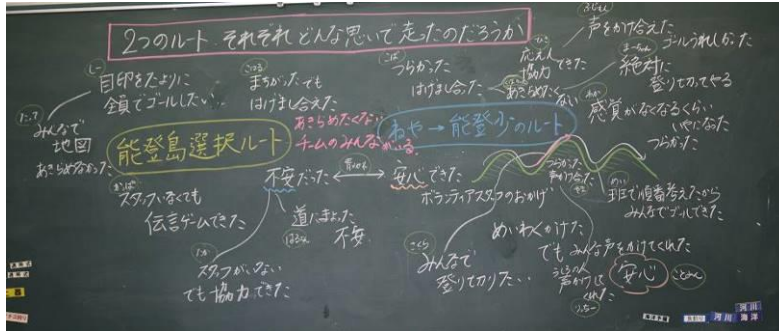


このグラフから以下の2点について考察した。

①登山行程やサイクリング前半(4~6日目)の行程では、スタッフが先導して走行したため、数値の上昇はあまり見られない。しかし、能登島選択ルートを取り入れた2日間(7日目、8日目)では、数値が大きく上昇した。このことから、能登島選択ルートは、子供たちの「自ら考え判断して行動する力」を付けるための手立てとして有効であった。

②事業全体を通して見ると、昨年度の数値の上昇率0.3(3.9→4.2)に比べ、今年度の上昇率1.2(3.6→4.8)が4倍と高くなっている。これは、今年度取り組んだ能登島選択ルートで付いた力が、その後のプログラムにも効果をもたらし、自ら考えて行動できる姿につながったと考える。

また、能登島選択ルートを終えた日の振り返りの時間では、「能登島選択ルート」と「スタッフが先導するルート」の2つのルートと比較し、それぞれどんな思いで走ったのかを話し合う時間を設定した。左下の写真は、子供たちの発言を引き出し、板書したものである。



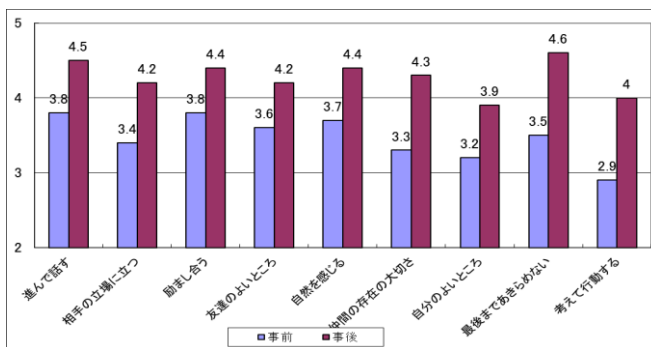
マップを広げ話し合う子供たち

能登島選択ルートでは、「道に迷って不安だった」「スタッフの指示がないと不安だった」という思いをもちながらも、「スタッフがなくても協力できた」「みんなで励まし合うことができた」と自分たちでやり遂げたことに対して自信をもつ姿が見られた。

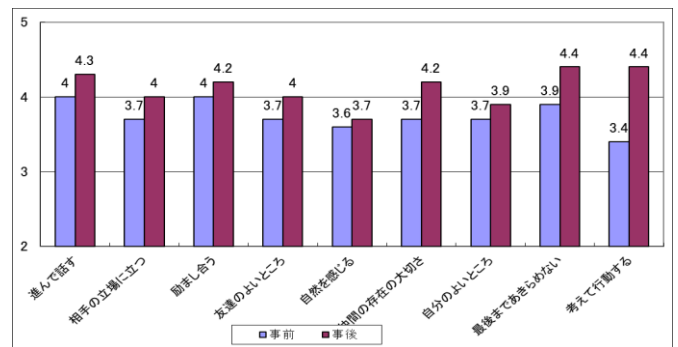
スタッフが先導するルートでは、「感覚がなくなるくらい辛かった」「遅れてしまって迷惑をかけた」という気持ちをもちながらも「みんなで登り切りたかった」「声をかけ合えてゴールできてうれしかった」と、仲間の存在の大切さを感じ、困難なことも仲間とやり遂げたいという思いにつながることができた。また、「スタッフがいて安心できた」「ボランティアスタッフのおかげで走ることが分かった」とスタッフへの感謝の気持ちをもつ姿も見られた。

このように、石川縦断キャンプ ACTIVE2016 では、困難なことを乗り越える力を身に付けるだけでなく、キャンプのステージのねらいに沿った支援をしていくことによって、子供の学びを充実させる事業を展開することができた。

②保護者(有効回答数18)・担任(有効回答数16)による事前・事後評価



「保護者による評価」



「担任による評価」

前頁のグラフより、事業終了1か月後の全ての得点が事前に対して上回っている。本事業をとおして培った力が、家庭や学校においても活かされている。また、事業後の子供の様子から、保護者は特に「最後まであきらめない」「考えて行動する」ようになった、担任は特に「最後まであきらめない」ようになったと感じている。

#### <保護者・担任事後アンケート自由記述より抜粋>

- ・キャンプから帰ってきた日の寝前にふいに「今までできなかったことができるようになった気がする」と言い出した。以前は人前で発表するのが苦手だったが、「もし学校で発表してと言われたらどうする」と聞いたら、「キャンプ中に何度も発表したから多分大丈夫」と答えた。(5年児童保護者)
- ・困っている人を見かけたら、自然に体が動くようになり、自分でも驚いたと言っている。これまでは周囲がどう思うか、押しつけになっていないかと考えていたが、真面目であることはやっぱりかっこいいことだと言っていた。(6年児童保護者)
- ・学校での避難訓練の反省で、友達の発言を評価し、「次は自分もその友達のように発言したり、行動したりしたい」と記述した。これまでは周囲の人に対して批判的な態度が多く見られたが、他者を認められるようになってきた。これは、自分自身に自信が付き、自己肯定感がもてるようになったからだと思う。(6年児童保護者)
- ・学校での様子を細かく話すことはなかったが、先日、委員会の仕事と係の仕事が重なってしまい「こんなふうに対処したよ」と報告してくれた。その内容が、他の人に迷惑がかからないように自分が段取りできたということだった。自分から発信できるようになったこと、相手の立場を考えられるようになったこと、1か月を経て、目に見えた成長を感じることができ、正直驚いている。(5年児童保護者)
- ・自分の将来の夢をもつようになり、日常的に関わりのない障害者の人たちと触れ合える仕事がしたいと言いつ出した。盲学校の先生になりたいとまで言い出して私たちはとても驚かされている。目標をもてるようになったことがうれしく感じている。(5年児童保護者)
- ・あいさつや返事など、授業中の反応が以前より積極的になっている。「人がしているから」ではなく、自分から大きな声を出す姿は、周囲の手本になっている。また、2学期の目標に、苦手としていることの改善・克服を挙げている。キャンプで自分自身を見つめることができたのだと、その変化がうれしい。(6年児童担任)
- ・顔つきが変わった。自信に満ちている感じで、話を聞く時も、きちんと相手を見ている。9月に宿泊学習があったが、自ら部屋長に立候補したり、活動リーダーになったりと積極的に行動するようになった。また、これまでいい加減に仕上げていた宿題も、きちんと行っている。(5年児童担任)

このように、周囲から見ても、子供たちが変化している様子が伺える。もちろん、10泊11日のキャンプを経験したことが子供たちの成長につながったという安易な考えで捉えているわけではない。しかし、ただ困難なことに挑戦するのではなく、明確な意味付けされたプログラムを仕組むこと、自己を見つめる振り返りの機会を継続的にもち、学びの場を充実させることなど、キャンプの趣旨に沿った支援をすることが、子供たちが成長していくきっかけとなったことは断言できる。

#### (3) ふりかえり作文より抜粋

- ・登山では、みんなで登ると1人よりもあきらめずに頑張れるし、力がわいてくるということが分かりました。前よりもあきらめない気持ちが付いたと思います。サイクリングでは、「大丈夫!」「登れる!」と声をかけ合って、励まし合ったから一番きつい坂道も登れたのだと感じました。全員が必死になってやることはこんなに楽しいことなのだと実感しました。
- ・私の目当ては「思ったことはしっかり言う」でした。それは、これまでの私は、班の中で言い合いになった時は友達関係が崩れるのが嫌で逃げていました。このキャンプで思ったことは、思っていることを言うだけでと相手が嫌な気持ちになることがあるから、その人が言われてうれしい言葉に変えて言っていきたいと思いました。

11日間も一緒にいると、最後は別れるのがとてもつらいです。サイクリングで、ひとこぎこぎ度に、ゴールに近づいていると思うと、もうこぎたくないとい何度か思いました。

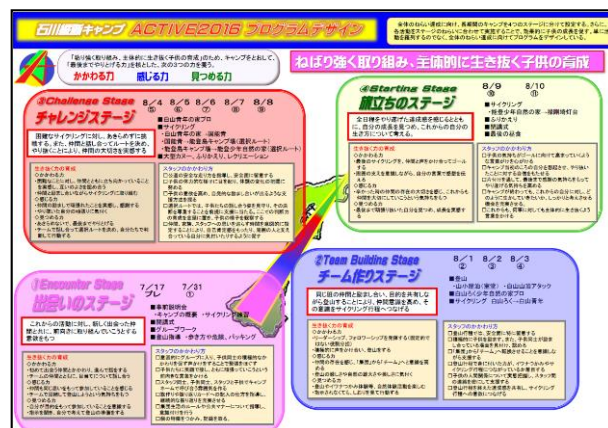


上り坂を必死にこぐ子供たち

#### (4) 成果と課題

##### 《成果》

- ・長期キャンプだからこそねらうことができる教育効果がある。ねらいを明確にし、プログラムデザインを作成し、ステージ制を設けた。活動を羅列するのではなく、それぞれのステージのねらいに沿った活動を組み入れていくことが大切である。
- ・生き抜く力の基礎を3つの力「かかわる力・感じる力・見つめる力」とし、それぞれの子供の姿で具体的に表した。その姿を自己評価の指標とし、毎日振り返りの時間を設定することで、子供が自分自身を見つめ、自己の成長を自覚できるように支援することができた。



- ・子供を長期に渡って参加させる保護者の思いを大切にしながら、事業を展開することが大切である。具体的には、次の3点に配慮した。

- ① 事前説明会を開き、キャンプの構想、日程等についてきちんと説明した。このことにより、不安な気持ちを少しでも軽減し、信頼を得ることができた。
- ② 1日に最低1回は事業の様子をHPに公開し、子供たちの様子を伝えた。このことにより、子供たちの日々のがんばりを知ってもらい、事業後に子供を称賛してもらうことにつながった。
- ③ 閉講式に保護者も参加し、子供一人一人の思いを聞く機会を設けた。また、事業中の様子をスライドショーで観てもらい、頑張った子供と、思いを共有することができた。

- ・登山やサイクリングは、危険が伴うため、事前の実地踏査を入念に行い、安全管理を徹底した。白山は、登山経験が豊富な連携公立施設の職員と現地研修を2回行った。また、事業中は、看護師に帯同してもらい、子供の体調管理について気を配ってもらった。サイクリング行程では、職員が事前に走行し、道路の状況、休憩ポイント等を地図上に反映し、スタッフの事前打ち合わせで活用した。このように、子供の命を預かる立場として、万全の安全対策をとる必要がある。



早朝、山頂にむけて登山する子供

- ・1施設単独で実施するのではなく、県内の公立3施設と連携し、効果的に事業を進めた。そのために、事前に企画会議を数回開き、多様な意見を交換し、全施設で事業を作り上げるという意識をもって取り組んでいくことができた。

- ・サイクリングでは、いきなり長距離を走行することは困難である。初日はゆるやかな下り坂が多くて短距離、2日目は平坦な道で長距離、3日目は起伏のある道で中距離、4日目は起伏のある道で長距離、というように、徐々に負荷のかかるプログラムを設定することが大切である。また、子供たちの疲労が蓄積されていくことも考慮し、途中で施設滞在日を設定することも大切である。

##### 《課題》

- ・自己評価は、単に点数を高くすることが目的ではなく、評価を通して自分自身を見つめるきっかけと捉えている。最初は何となく点数を付けていた子供たちは、次第にその日の自分をしっかりと見つめ、自己評価点が厳しくなる傾向にある。それが故に、8/4の評価点が下がったことは、子供たちの素直な反応であると考えられる。この事業は、4つのステージ制を設定し、「チーム」での活動を通して「個」の生き抜く力を育成することをねらった事業である。竹細工は「自然を感じる」の観点では、とても大切なプログラムではあるが、よりチームの力が高まるような別のプログラムを考えるなど、今後検討が必要である。
- ・参加者の個人装備の管理面で問題があった。特に、山小屋で利用した乾燥室で、他の登山者との間で、雨具の取り違えがあった。団体名を明らかにしておくなどの対応が必要であった。